

---

# 少年とアトランティス

由一

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

少年とアトランティス

### 【Zマーク】

Z3573U

### 【作者名】

由一

### 【あらすじ】

そこにしか無い漫画雑誌を求めて、少年は本屋に入る。  
そこはとても居心地の悪い本屋だった……

本屋「ハルコ堂書店」は、立ち読み禁止である。怖い店主のおばさんが常にそのぎょりうとした田で店内を監視している。

小学6年生の牧田良治にとつてはこの空間はとても居づらい場所であったが、月に一回は止むを得ず訪れていた。なぜなら、この本屋にしか売っていない雑誌があったのだ。

「少年アトランティス」。

良治が手に取ったのはそんな名前の漫画雑誌だった。お小遣いは毎月500円である彼にとって、その80%を吸い取るこの雑誌は高価なものであったが、それ以上の価値があった。

魚人のような顔立ちの店主のおばさんに、ビニールひもを十字に巡らされたを渡す。

おばさんは、一度「少年アトランティス」を舐めるように見ますと、「290円」と囁つた。

良治はそれに驚いた。「少年アトランティス」はいつも390円なのだ。

「おばさんは、値段を間違えたのだろうか？」それとも、値引をしてくれたんだろうか？

いいで、そのまま290円を払って店を出る人間もいただろう。

しかし、良治の善良で真面目な性格はそれを許さなかつた。

「ねばねば、これ390円ですよ。」

「わらんと、そのわだかまりを解決しようとした。

ねばねばは怖かつたが思つていた事を正直に言つた。

「あらあ。」

ねばねばは、田をわらみりと丸くするとすぐて一度雑誌の後の値段を見る。そして、10秒程制止したのちにひき放つた。

「一月前の私がそう言つてたから間違えやつたよ。はい、390円だからおつりは110円ね。」

何も無かつたようじ、わらと良治の手に100円玉一枚と5円玉2枚が乗つかる。

良治はそれをそのままポケットに突っ込むと、店を出た。

外は、日差しが強く、空は青で雲ひとつなかつた。

どこからか、魚の匂いがする。近所には魚やも無いのに、じんわりどこかかかる。

しかし、良治の心の中は「少年アトランティス」のことについてばかりだった。

先月号で最高潮を迎えた「モノリスマン勧」の続きの事でいっぽいであつた。

背後にそびえ立つ天空まで続くエレベーターに気付く事も無く、彼は平凡なコンクリートの大地を踏みしめ続ける。

ポケットの小銭がこすり合つてじゅらじゅらと音を立てた。390円の重圧はそれに紛れ、手元の間隔は失われた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3573u/>

---

少年とアトランティス

2011年10月9日04時02分発行